

# 財 団 報

Astellas Foundation for Research on Metabolic Disorders

2010.9 No.3

## 目 次

ご挨拶 理事長 児玉 龍彦 .....	1
I 平成 21 年度事業報告	
1. 年間の経緯 .....	2
2. 事業について	
1) 助成事業 .....	3
2) 研究報告会 .....	7
3) 39 回助成研究報告書 .....	8
3. 会計報告 .....	9
II 平成 21 年度 最優秀理事長賞受賞者、研究助成金・留学補助金交付者からのお便り .....	10
最優秀理事長賞 井垣 達史、西野 邦彦	
研究助成 池田 華子、稲田 明理、篠原 美都、竹内 純、武川 睦寛、 樋口 麻衣子、檜井 栄一、松永 茂樹、南 雅文、渡辺 賢二	
海外留学 飯島 崇利、伊藤 綾香、加治屋 崇、金澤 雅人、岸本 泰士郎 下田 将之、末原 義之、林 洋光、平野 節、星谷 尚亨	
III 公益財団法人への移行の取組みと結果 .....	34
IV 財団概要	
1. 沿革 .....	36
2. 目的 .....	36
3. 事業 .....	36
4. 事業内容 .....	36
5. 組織と人員 .....	37
6. 役員・評議員 .....	38
設立趣意書 .....	39
V ご寄付の報告とお願い .....	40
編集後記 .....	41

#### 注記

- ◆ この財団報は、平成22年(2010年)6月19日開催の平成22年度第1回定例理事会において承認された「平成21年度事業報告書」に基づき、当財団の平成21年度(2009年4月1日～2010年3月31日)の事業内容を取りまとめたものです。
- ◆ 本報告書・助成対象一覧の所属機関は、研究助成金は交付時、海外留学補助金については申請時のものであり、以降の変更は反映させていません。

# 氏は育ちをへて役割がきまる： ゲノムからエピゲノムへ

児玉 龍彦

財団法人 病態代謝研究会\* 理事長



生命の糸とよばれるDNAは、ヒトの細胞では30億個の塩基対からなり、1メートルの長さにもなる。DNAの2重ラセンは、147塩基ごとに、8個のヒストンにまきついてヌクレオソーム構造を作り、8本のテールがそれぞれのヒストンコードを提示している。ゲノム上に1000万個あるヌクレオソームの、いわば、情報の管理バーコードのようなものである。

生命科学の永遠の命題に、「氏か育ちか」という問いがある。60兆個の細胞はそれぞれDNAをもつ。DNAの塩基配列に書かれた「氏」が、受精してから成人して現在までの「育ち」の中で、ヒストンコードの書き換えを中心とするエピゲノム情報の書き換えをうけ、働きが決まっていく。ヒストンコードは細胞分裂の時に複製されるので、細胞の記憶を形作る。

「刷込み」というあるクリティカルな時期にだけ細胞が、外界に反応して可塑性を示す現象である。刷込みが起こるのは、生物の成長途上のある特定の時期に限られ、臨界期をすぎると可塑性は失われ、外界の刺激に不応性になる。最近、ショウジョウバエの発生において、胸部にも腹部にもなる可塑性をもっている時期は、腹の形作りにかかわる遺伝子座のヒストン3の4番目のリジンのトライソラックス複合体によるメチル化という活性化のマーキングと、ヒストン3の27番目のポリコーム複合体によるメチル化という2つの代表的マーキングが両方起こっていることがわかってきた。ポリコームのみが働くようにな

ると、この遺伝子座は不活性になり胸になり、トライソラックスのみが働くと腹になる。いわば坂道発進のアクセルブレーキのような状態が可塑性のある状態であり、それが分化していくと活性化か抑制かに運命が決まっていくと思われる。

つまり「氏」=ゲノム情報は、「育ち」=エピゲノム情報をうけて働きが決まることになり、60兆個の細胞はきちんとした育ちの経過の記録をヒストンコードとしてもっていることになる。最近X染色体にリンクした精神発達障害の原因遺伝子が90個ほど同定され、ヒストンコードにかかわるものがあることがわかってきた。もしヒストンのメチル化や脱メチル化が、神経細胞の可塑性や記憶にかかわるとすると、高齢化にともなう認知症や神経活動の低下を、メチル化酵素や脱メチル化の阻害剤で防ぐことができる可能性がある。

がんにおいても、ポリコーム複合体の酵素活性タンパクであるEZH2の阻害が肺の小細胞がんの画期的な治療薬候補であり、前立腺がん、乳がんなどの悪性化、転移の抑制に期待されている。

エピゲノムの書き換えは、細胞の記憶の本質にかかわる行為であり、さまざまな予想せざる副作用の可能性もあるが、大きなチャレンジである。病態代謝研究会としてもエピゲノムにかかわるさまざまな生命現象についての独創的な研究の助成を特に強化したいと思っている。

(2010年8月 記)

\*：公益認定を取得し、2010年4月1日に公益財団法人アステラス病態代謝研究会と財団名称を変更していますが、本号は平成21年度（2009年度）の活動報告であるため、ここでは移行前の財団名をそのまま使用しています。

# I 平成21年度事業報告

## 1 年間の経緯

### 平成 21 年 (2009 年)

- 4 月 1 日 平成 21 年度研究助成金・海外留学補助金申請の応募要領公開
- 6 月 20 日 第 1 回評議員会および理事会
  - 平成 20 年度事業報告、収支報告承諾の件
  - 公益財団法人移行申請書承認の件
  - 学術委員推薦
- 8 月 1 日～31 日  
研究助成金・海外留学補助金申請書の審査員個別審査
- 9 月 30 日 財団報 (No.2) 発行
- 10 月 17 日 第 40 回研究報告会
  - 平成 20 年度 (第 40 回) 研究助成交付者 61 名第 1 回審査委員会
  - 平成 21 年度研究助成金および海外留学補助金交付者選出・交付総額の件第 2 回評議員会および理事会
  - 平成 21 年度研究助成金および海外留学補助金交付者・交付総額承認の件
  - 公益財団法人移行申請：申請書再変更承認の件
  - 次回評議員会・理事会開催承認の件
- 11 月 1 日 平成 21 年度研究助成金交付者発表

### 平成 22 年 (2010 年)

- 2 月 1 日 平成 21 年度海外留学補助金交付者発表
- 2 月 6 日 第 3 回評議員会および理事会
  - 公益法人移行に伴う理事後任者選任の件
  - 平成 21 年度事業報告・仮収支報告承認の件
  - 平成 22 年度事業計画・収支予算書 (案) 承認の件
  - 平成 22 年度公募要領・申請規程および評価方法承認の件
  - 第 41 回研究報告会開催承認の件
  - 新・新会計導入に伴う関連内規変更案の承認の件
  - 公益財団法人定款変更案および関連内規の承認の件
  - 公益財団法人移行申請書の承認について
  - 次回の評議員会・理事会開催日承認の件
- 3 月 30 日 第 39 回助成研究報告集発行
- 3 月 31 日 平成 22 年 4 月 1 日の公益財団法人移行登記に伴い評議員辞任

## 2 事業について

### 1) 助成事業

#### i) 研究助成金

公募のメインテーマを「疾患の解明と画期的治療法の開発に関する研究」と定め下記の3サブテーマに関し平成21年5月1日～6月30日の期間に公募を実施しました。

- ① 疾患の基礎的および臨床的研究
- ② 創薬科学研究
- ③ 基礎生命科学研究

サブテーマ①には326名、サブテーマ②には93名、サブテーマ③には168名、合計587名の応募があり、平成21年10月17日開催の審査委員会にて交付者候補（サブテーマ①30名、サブテーマ②8名、サブテーマ③27名）が選出され、同日開催された評議員会、理事会で対象者65名が決定されました。本決定に基づき、総額6,500万円を11月に交付しました。

#### ii) 海外留学補助金

平成21年5月から平成22年4月の期間に留学を開始する研究者を対象として平成21年5月1日～6月30日の期間に公募を実施しました。116名の応募があり、平成21年10月17日の審査委員会で交付候補者10名が選出され、同日開催された評議員会、理事会で内定者10名が決定されました。

なお、日本学術振興会や他の民間財団からの助成が決定したことで当財団からの交付を辞退される方がおられましたので、次点者を順次繰り上げ、2月末に10名の交付者を最終決定し、総額2,000万円を交付しました。

## 平成21年度研究助成金公募 研究テーマ別一覧

メインテーマ：疾患の解明と画期的治療法の開発に関する研究

サブテーマ①：疾患の基礎的および臨床的研究

サブテーマ②：創薬科学研究

サブテーマ③：基礎生命科学研究

研究助成金・海外留学補助金申請者数・交付者数・交付金額

項目	申請者数	交付者数	交付金額
			研究助成金1件：100万円 海外留学補助金1件：200万円
研究助成金	587名	65名	6,500万円
・サブテーマ①	(326名)	(30名)	(3,000万円)
・サブテーマ②	(93名)	(8名)	(800万円)
・サブテーマ③	(168名)	(27名)	(2,700万円)
海外留学補助金	116名	10名	2,000万円
総計	703名	75名	8,500万円

## 平成21年度研究助成金 交付者テーマ別一覧

サブテーマ ① 疾患の基礎的および臨床的研究 (30名)

(五十音順・敬称略)

No.	氏名	所属機関(交付時)	研究テーマ
1	あかざわ ひろし 赤澤 宏	千葉大学大学院 医学研究院 循環病態医科学	アンジオテンシンⅡ受容体における アゴニスト非依存的活性化の機序と病因的役割
2	あらかし としゆき 荒木 敏之	国立精神・神経センター 神経研究所 疾病研究第五部	糖尿病性末梢神経障害の培養モデルの確立と 治療薬開発への応用
3	ありた まこと 有田 誠	東京大学大学院 薬学系研究科 衛生化学教室	炎症の収束に関わる細胞と脂質性メディエーターの機能解析
4	いけだ きょうじ 池田 恭治	国立長寿医療センター 研究所 運動器疾患研究部	グルココルチコイドの骨作用に関する研究
5	いけだ はなこ 池田 華子	京都大学 医学部 眼科学教室	難治眼疾患に対する新たな治療法の開発
6	いなだ あかり 稲田 明理	九州大学大学院 医学研究院 幹細胞ユニット 糖尿病遺伝子分野	β細胞の新生能力と環境
7	いまい ゆづる 今居 譲	東北大学 加齢医学研究所	パーキンソン病原因遺伝子産物がミトコンドリアの 機能を維持する分子メカニズムの研究
8	おおつか もとゆき 大塚 基之	東京大学 医学部 消化器内科	持続炎症に伴う発癌の原因としての炎症性サイトカインが 惹起する microRNA の機能異常の解析
9	おおとり せいじ 大鳥 精司	千葉大学大学院 医学研究院 整形外科	腰椎外科手術における自家骨・人工骨と多血小板血漿使用による 骨癒合促進効果に関する多施設・前向きランダム化・臨床研究
10	おの ひらく 小野 啓	埼玉医科大学 医学部 内分泌代謝内科	摂食調節および糖代謝調節における 視床下部 PTEN の機能の解明
11	きたむら ただひろ 北村 忠弘	群馬大学 生体調節研究所 代謝シグナル研究展開センター 代謝シグナル解析分野	FoxO1 による ChREBP の O-グリコシル化調節を 介した肝糖代謝制御機構の解明
12	ささべ じゅんべい 笹部 潤平	慶應義塾大学 医学部 解剖学教室	タンパク質中の D-アミノ酸増加による立体構造変化により 誘発される小胞体ストレスに注目した新規老化機序の解明

13	さんべ あつし 三部 篤	国立成育医療センター研究所 薬剤治療研究部 実験薬理室	アミロイドオリゴマー形成を阻害する化合物による アミロイド関連疾患治療
14	せきね ゆういち 関根 勇一	北海道大学大学院 薬学研究院 衛生化学研究室	アダプター分子 STAP-2 による 癌細胞浸潤・転移制御メカニズムの解明
15	たき しんすけ 瀧 伸介	信州大学大学院 医学系研究科 移植免疫感染症学講座	好塩基球のアレルゲン刺激受容と 2 型ヘルパー T 細胞誘導機構の分子基礎
16	たくみ とおる 内匠 透	広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 統合バイオ研究室	自閉症ヒト型モデルマウスのエビジェネティクス解析
17	たけしま ひろし 竹島 浩	京都大学大学院 薬学研究科 生体分子認識学分野	筋細胞膜修復機構の鍵分子であるミツグミン 53 に関して、 その機能異常と筋疾患の関連を解明することを目指す
18	たなべ けんじ 田邊 賢司	岡山大学 医歯薬学総合研究科 生化学	ヒト免疫不全ウイルスによる CD4 分解機構
19	つかもと さとし 塚本 智史	放射線医学総合研究所 基盤技術センター 実験動物・開発管理課	不妊への新たな治療戦略としてのオートファジーによる 卵子の品質改善に関する研究
20	なかがわ よしみ 中川 嘉	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 診断生化学	フィブラート系薬剤が標的とする新たな脂質代謝因子の 同定とその生理的意義の検討
21	にしむら りこう 西村 理行	大阪大学大学院 歯学研究科 生化学教室	骨関節炎の発症過程におけるインディアンヘッジホッグシグ ナルと転写因子ネットワークの相互関係の解明
22	ひくち おさむ 樋口 理	東京大学医科学研究所 癌・細胞増殖部門 腫瘍抑制分野	筋無力症の分子病態の解明と病因分子の探索
23	ひのい えいいち 檜井 栄一	金沢大学大学院 自然科学研究科 薬物学研究室	骨組織を標的としたメタボリックシンドロームに対する 新規治療法の開発研究
24	ふじき りょうじ 藤木 亮次	東京大学分子細胞生物学研究所 核内情報研究分野	核内糖修飾による血球細胞分化制御の応用
25	ふじもと まさき 藤本 昌紀	千葉大学大学院 医学研究院 細胞治療学	癌転移促進因子 Twist1 の 新規エネルギー代謝制御機構の解析
26	まつざか たかし 松坂 賢	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 内分泌代謝・糖尿病内科	動脈硬化症の発症・進展における 長鎖脂肪酸伸長酵素 Elovl6 の役割
27	みなみ まさふみ 南 雅文	北海道大学大学院 薬学研究院 薬理学研究室	痛みによる不快情動の制御における 扁桃体内神経ペプチド情報伝達の役割
28	みなみの とおる 南野 徹	千葉大学 医学部附属病院 循環器内科	老化シグナル制御による生活習慣病治療法の開発
29	やなぎた もとこ 柳田 素子	京都大学大学院 医学研究科 生命科学系キャリアパス形成ユニット	BMP 調節因子群が制御する腎幹細胞維持および 障害修復メカニズムの解明
30	やまもと ひろゆき 山本 博幸	札幌医科大学 医学部 内科学第一講座	次世代統合ゲノミクス解析による新時代を切り拓く 消化器発癌研究とその革新的医療への実用化

## サブテーマ ② 創薬科学研究 (8名)

(五十音順・敬称略)

No.	氏名	所属機関(交付時)	研究テーマ
1	あべ いくろう 阿部 郁朗	東京大学大学院 薬学系研究科 天然物化学教室	ステロイド系抗生物質ヘルボール酸の生合成遺伝子クラスターの 合理的機能改変により非天然型新規抗生物質の創出をめざす
2	あみい ひでき 網井 秀樹	神戸大学大学院 理学研究科化学専攻 有機化学講座	触媒の含フッ素官能基導入法による医薬品合成の高効率化
3	いしい まさる 石井 優	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 生体イメージング研究室	破骨細胞の遊走・位置決めを標的とした 新しい骨吸収性疾患治療薬の開発
4	いずみや やすひろ 泉家 康宏	熊本大学大学院 医学薬学研究所 循環器病態学	Periodic acceleration を利用した受動運動により骨格筋から 分泌される血管新生因子の同定
5	つかもと さちこ 塚本 佐知子	熊本大学大学院 医学薬学研究所 天然薬物学分野	ユビキチン-プロテアソームシステムのリクルート過程を 標的とする新規抗がん剤の開発
6	ひらの ともや 平野 智也	東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 分子設計分野	エストラジオールの non-genomic な生理機能の解析を 志向した機能性分子の創製
7	まつなが しげき 松永 茂樹	東京大学大学院 薬学系研究科 有機合成化学教室	2 金属協奏機能触媒を活用した 光学活性オキシインドール合成法の確立と医薬合成への展開
8	わたなべ けんじ 渡辺 賢二	岡山大学 異分野融合先端研究コア 天然物有機化学研究室	生合成遺伝子の腸菌発現による 抗腫瘍生体活性物質サフラマイシンの効率的合成

サブテーマ ③ 基礎生命科学研究 (27名)

(五十音順・敬称略)

No.	氏名	所属機関(交付時)	研究テーマ
1	あらい ふうみお 新井 文用	慶應義塾大学 医学部 発生・分化生物学	造血幹細胞の不均等分裂の制御による幹細胞増幅
2	いがき たつし 井垣 達吏	神戸大学大学院 医学研究科 細胞生物学	ショウジョウバエモデルを用いた 非遺伝的腫瘍悪性化機構の解析
3	いしたに とおる 石谷 太	九州大学 生体防御医学研究所 細胞統御システム分野	シグナル可視化ゼブラフィッシュ SLIZ を 利用したシグナル伝達の生理学的機能の網羅的解析
4	いまいずみ かずのり 今泉 和則	宮崎大学 医学部 解剖学講座 分子細胞生物学分野	骨軟骨代謝のダイナミクスと小胞体ストレス応答
5	うえむら ただし 上村 匡	京都大学大学院 生命科学研究所 細胞認識学分野	晩発性神経変性を防ぐ機構： 高解像度網羅的な遺伝子探索系を用いた解析
6	おおうち ひでよ 大内 淑代	徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部 ライフシステム部門 発生進化化学研究室	脊椎動物の網膜発生過程における体内時計の 光センサー・メラノプシンの役割の解明
7	おくの ひろゆき 奥野 浩行	東京大学大学院 医学系研究科 脳神経医学専攻 神経生化学分野	神経活動依存的転写制御エレメント SARE を利用した シナプス核シグナルの解析および記憶痕跡の探索
8	かのう じゅんこ 加納 純子	大阪大学 蛋白質研究所 生命維持情報ネットワーク研究グループ	細胞分裂期における染色体と核膜との関係
9	きむら いくお 木村 郁夫	京都大学大学院 薬学研究科 薬理ゲノミクス分野	短鎖脂肪酸受容体 GPR41 の交感神経系を介した 代謝制御機構の解明
10	さいとう こうた 齋藤 康太	東京大学大学院 薬学系研究科 生理化学教室	巨大分子Ⅶ型コラーゲンの分泌を制御する 新規小胞体膜蛋白質の機能解析
11	さかい じゅうろう 酒井 寿郎	東京大学 先端科学技術研究センター 代謝内分泌システム生物医学分野	脂肪細胞分化を制御する Set ドメイン蛋白質の メチル化酵素活性化能の解析
12	さとう けん 佐藤 健	群馬大学 生体調節研究所 細胞構造分野	モデル生物を利用したコレステロールの細胞内取り込みに 働く新規因子の探索と解析
13	さとう ようこ 佐藤 容子	関東学院大学 人間環境学部 健康栄養学科 生理学講座	喫煙がおよぼす胎児脳発生障害 - 光学イメージング解析による新規メカニズムの提唱 -
14	さの ひろこ 佐野 浩子	お茶の水女子大学 お茶大アカデミック・プロダクション	ショウジョウバエをモデルとした脂質制御の遺伝学的解析
15	しのはら みと 篠原 美都	京都大学大学院 医学研究科 遺伝医学講座 分子遺伝学分野	生殖細胞特異的な遺伝情報場制御の継承のメカニズムの解明
16	たけうち じゅん 竹内 純	東京工業大学 グローバルエッジ研究院 独立研究ユニット	心臓構成細胞運命を決定する特定因子の同定
17	たけかわ ひつひろ 武川 陸寛	名古屋大学 環境医学研究所 分子シグナル制御分野	ストレス顆粒形成によるストレス応答シグナルと 細胞運命の制御機構
18	たていし けいすけ 立石 敬介	東京大学 医学部附属病院 消化器内科	エネルギー代謝調節システムとしての ヒストンメチル化制御の分子基盤の検討
19	としま じろう 十島 二郎	東京理科大学 基礎工学部 生物工学科	エンドサイトーシスによる細胞外シグナルの 下方制御機構の解析
20	なかの ひろやす 中野 裕康	順天堂大学 医学部 免疫学	新たな酸化ストレス依存性経路の同定
21	はやし いくこ 林 郁子	横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科 計測科学研究室	ゴルジ体由来微小管形成の情報伝達機構
22	ひぐち まいこ 樋口 麻衣子	東京大学 分子細胞生物学研究所 情報伝達研究分野	原癌遺伝子 Akt のアイソフォーム特異的機能制御
23	びとう はるひこ 尾藤 晴彦	東京大学大学院 医学系研究科 神経生化学教室	フェムトリター微小領域であるシナプスにおける アクチン動態計測
24	ひらやま けん 平山 順	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 MTT プログラム	概日リズム制御因子と糖付加酵素の翻訳後修飾に 注目した概日リズムと糖代謝の相互関係
25	まさい ひさお 正井 久雄	東京都臨床医学総合研究所 ゲノム動態プロジェクト	染色体ダイナミクスの可塑性を制御する 分子メカニズムの解明
26	やの たまき 矢野 環	東北大学大学院 薬学研究科 生命機能解析学分野	細胞内寄生細菌に対する自然免疫応答としてのオートファジーの 空間的制御における microRNA の同定と機能解析
27	よしだ ちはる 吉田 千春	大阪府立母子保健総合医療センター研究所 病因病態部門	表皮前駆細胞の分化過程における Wnt シグナルの機能解析

## 海外留学補助金交付者一覧 (10名)

(五十音順・敬称略)

No.	氏名	所属機関(申請時)	研究テーマ
1	飯島 崇利	慶應義塾大学 医学部 生理学教室	神経系の発達期および成熟期における選択的シナプス構築の分子的基盤の解明
2	伊藤 綾香	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子代謝医学分野	核内受容体を介した脂質代謝シグナルと炎症シグナルのクロストークによる動脈硬化発症機構の解明
3	加治屋 崇	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 循環器・呼吸器・代謝内科学	高血圧及びメタボリックシンドロームのメカニズム、治療について(主にPPAR $\gamma$ の関与について)
4	金澤 雅人	新潟大学脳研究所 神経内科学教室	脳梗塞後の血液脳関門破綻を抑制する新規治療標的分子の同定
5	岸本 泰士郎	慶應義塾大学 医学部 精神神経科学教室	統合失調症に対する臨床研究 -薬物治療戦略開発および副作用(特に高プロラクチン血症関連)の研究を中心に
6	下田 将之	慶應義塾大学 医学部 病理学教室	癌関連線維芽細胞による癌幹細胞維持機構の解明
7	末原 義之	順天堂大学 医学部 整形外科	骨軟部腫瘍のバイオマーカー・分子標的開発を目的とした遺伝子・タンパク質発現解析
8	林 洋光	熊本大学大学院 医学薬学研究部 消化器外科学	門脈結紮術後の肝再生及び肝萎縮におけるトロンボスポンジンの機構解析
9	平野 節	東京大学大学院 農学生命科学研究科 醸造学研究室	Caulobacter を用いた原核生物の細胞極性制御因子に関する研究
10	星谷 尚亨	北海道大学 薬学研究院 創薬有機化学研究室	Metal-Catalyzed Routes to Nitrogen Heterocycles

## 2) 研究報告会

平成20年度(第40回)研究助成金交付者61名による研究報告会を、平成21年10月17日、東京・経団連会館にて開催いたしました。また、研究報告会において発表された研究の中から、特に優れた研究(2件)に対し最優秀理事長賞として追加研究助成金(1件100万円、総額200万円)および賞状を交付しました。



研究報告会風景

第40回研究報告会	
●日時:	2009年10月17日(土) 9:00~17:15
●場所:	経団連会館 (東京都千代田区大手町1-3-2 TEL (03) 6741-0222)
●組合費:	4 冊 (納期 8:30~)
●研究報告会:	第1会場 401 第2会場 (4 階) 9:00~17:15 第3会場 402 第4会場 (4 階) 9:15~17:15
●特別招待:	宮本 浩平 (2 階) 13:25~13:55
●懇話会:	飯野 昌博 (2 階) 12:00~13:00
財団法人 病態代謝研究会	

研究報告会プログラム表紙

## 第40回最優秀理事長賞 2名 (1件 100万円)

(五十音順・敬称略)

受賞者名	所属機関(受賞時)	研究テーマ
井垣 達史	神戸大学大学院 医学研究科 細胞生物学分野	上皮の内在性癌抑制システムを司る細胞競合機構の解明
西野 邦彦	大阪大学 産業科学研究所 感染制御学研究分野	感染時における細菌および宿主防御システム動作原理の解明



井垣達史先生



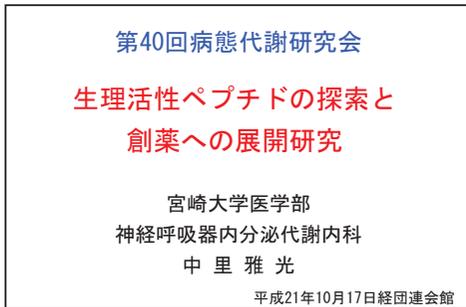
西野邦彦先生



賞状フォルダー

### 3) 特別講演

前年度の研究助成金交付者による研究報告会では毎回、昼食後の時間帯に当財団役員による特別講演を行ってまいりました。今回は当財団評議員であります宮崎大学医学部 教授 中里雅光先生による特別講演「生理活性ペプチドの探索と創薬への展開研究」を実施いたしました。研究会にご出席の多くの研究者がご聴講くださいました。



タイトルスライド



中里雅光先生

### 4) 第39回助成研究報告集

平成19年度（第39回）研究助成金のもと実施されたご研究をまとめた報告集「第39回助成研究報告集」を、平成22年3月に発刊しました。この報告集は平成19年度に研究助成を受けられた方々から、平成21年10月までにご報告いただいた研究成果をまとめたものです。

なお、今回から使用する紙の削減や保管スペースに配慮し、CD-ROMでの発行としました。



### 3 会計報告（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

#### 1) 貸借対照表（平成22年3月31日現在）

(単価：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
I 資産の部			
1. 流動資産			
預金	18,564,244	7,299,896	25,864,140
流動資産合計	18,564,244	7,299,896	25,864,140
2. 固定資産			
(1) 基本財産	2,387,871,303	0	2,387,871,303
投資有価証券（株式含む）	1,881,618,118	0	1,881,618,118
預金	506,253,185	0	506,253,185
(2) 研究助成資金	848,528,447	0	848,528,447
投資有価証券	630,575,941	0	630,575,941
預金	217,952,506	0	217,952,506
固定資産合計	3,236,399,750	0	3,236,399,750
資産合計	3,254,963,994	7,299,896	3,262,263,890
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	771,207	126,870	898,077
流動負債合計	771,207	126,870	898,077
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	771,207	126,870	898,077
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(304,436,745)	( 0)	(304,436,745)
(うち研究助成資金への充当額)	(848,528,447)	( 0)	(848,528,447)
指定正味財産	1,152,965,192	0	1,152,965,192
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(2,083,434,558)	( 0)	(2,083,434,558)
一般正味財産	2,101,227,595	7,173,026	2,108,400,621
正味財産合計	3,254,192,787	7,173,026	3,261,365,813
負債および正味財産合計	3,254,963,994	7,299,896	3,262,263,890

#### 2) 正味財産増減計算書

(単価：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益	101,644,916	11,824,837	113,469,753
(2) 経常費用			
①事業費	112,128,988	0	112,128,988
②管理費	0	7,806,100	7,806,100
経常費用計	112,128,988	7,806,100	119,935,088
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 10,484,072	4,018,737	△ 6,465,335
基本財産評価益	19,710,000	0	19,710,000
当期経常増減額	9,225,928	4,018,737	13,244,665
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	9,225,928	4,018,737	13,244,665
一般正味財産期首残高	3,244,058,621	3,154,289	3,247,212,910
期中補正額（指定正味財産へ）	△ 1,152,056,954	0	△ 1,152,056,954
一般正味財産期末残高	2,101,227,595	7,173,026	2,108,400,621
II 指定正味財産増減の部			
基本財産評価益	32,827,005	0	32,827,005
基本財産受取配当金	1,072,440	0	1,072,440
受取寄付金	30,050,000	10,000,000	40,050,000
研究助成資金運用益	8,031,233	0	8,031,233
一般正味財産への振替額	△ 80,792,440	△ 10,000,000	△ 90,792,440
当期指定正味財産増減額	908,238	0	908,238
指定正味財産期首残高	0	0	0
期中補正額（一般正味財産から）	1,152,056,954	0	1,152,056,954
指定正味財産期末残高	1,152,965,192	0	1,152,965,192
III 正味財産期末残高	3,254,192,787	7,173,026	3,261,365,813